

畫面に浮動して居るからでなくてはならぬ。この自然界の壯美の觀を愛した度はウォーズウォーズのそれよりも強く、シエレーのそれよりも痛切であつたのである。もし夫れ氏に自然を愛する情がなかつたらば、如何にしてかの一萬九千餘の自然界の千態萬狀を描いた習作畫が出来やう筈がないのである。

此の故に氏の畫には深淵な意味を藏して居るものがある。いふまでもなく神韻漂渺たるものであるが、これが氏が獨特の妙技であるのである。かゝる描法は近代の風景畫家の主張に依れば大いに誤れるものであるといふのである。彼等の主張は繪畫の技術は「文學的」なるべからず、また智的なるべからずといふのである。併しながら余を以て見れば、例之ばレオナルド、ミカイルアンヂェロ、ホルベーン、レンブラン等の最高名家の作品に、智並に感情に訴えて居るものも、澤山にあるではないか。ラスキン氏も『大畫家の畫面の意味はその畫家自身の顯はさんとしたるものゝみに限るべきものではない、これより種々の意味を味ふべきものである』といふて居る。(ダブルユー、ジ、ローリンググソン稿)

談
片

寫生をするのに、場處の組立ばかりを選ばないで時といふことも考へてするがよい。詰らない場處でも見る時間によつて非常に面白くなる。また、晝間見て調子の整はない色や何かある處でも、朝早くとか夕暮に見るとマルで別の感じになるから、寫生をやる人はコンナ處を覗ふがよい。

一枚の繪、それは可なり物もよく現はれ感じもよく出てゐるとしても、コレが傑作とは云へまい。色の使ひやう筆の動き方などが氣持よく現はれてゐないと觀る人に快感を興へない。一つく見て批難する處の無い繪でも、一見して全體に不愉快の氣があつては面白くない。